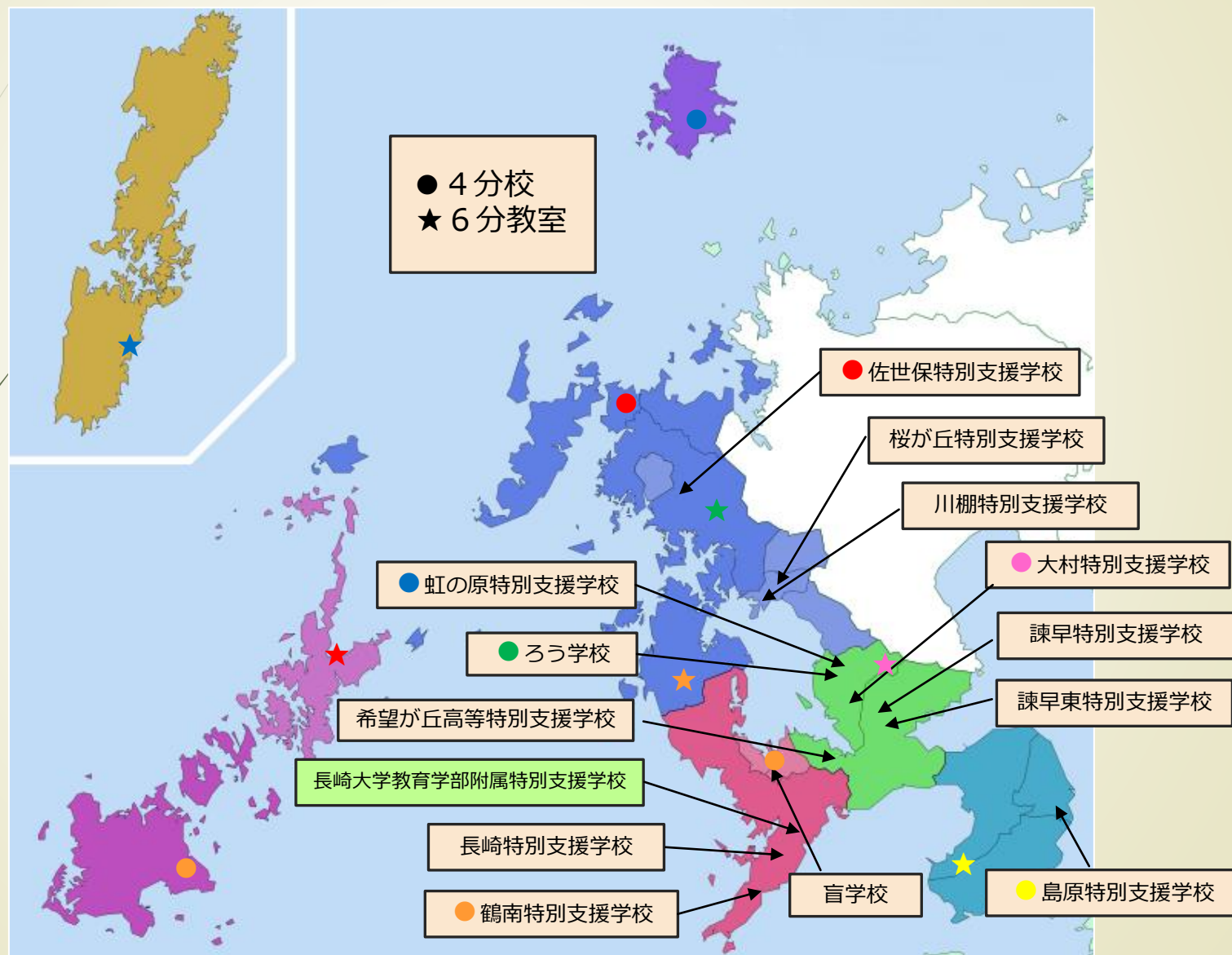


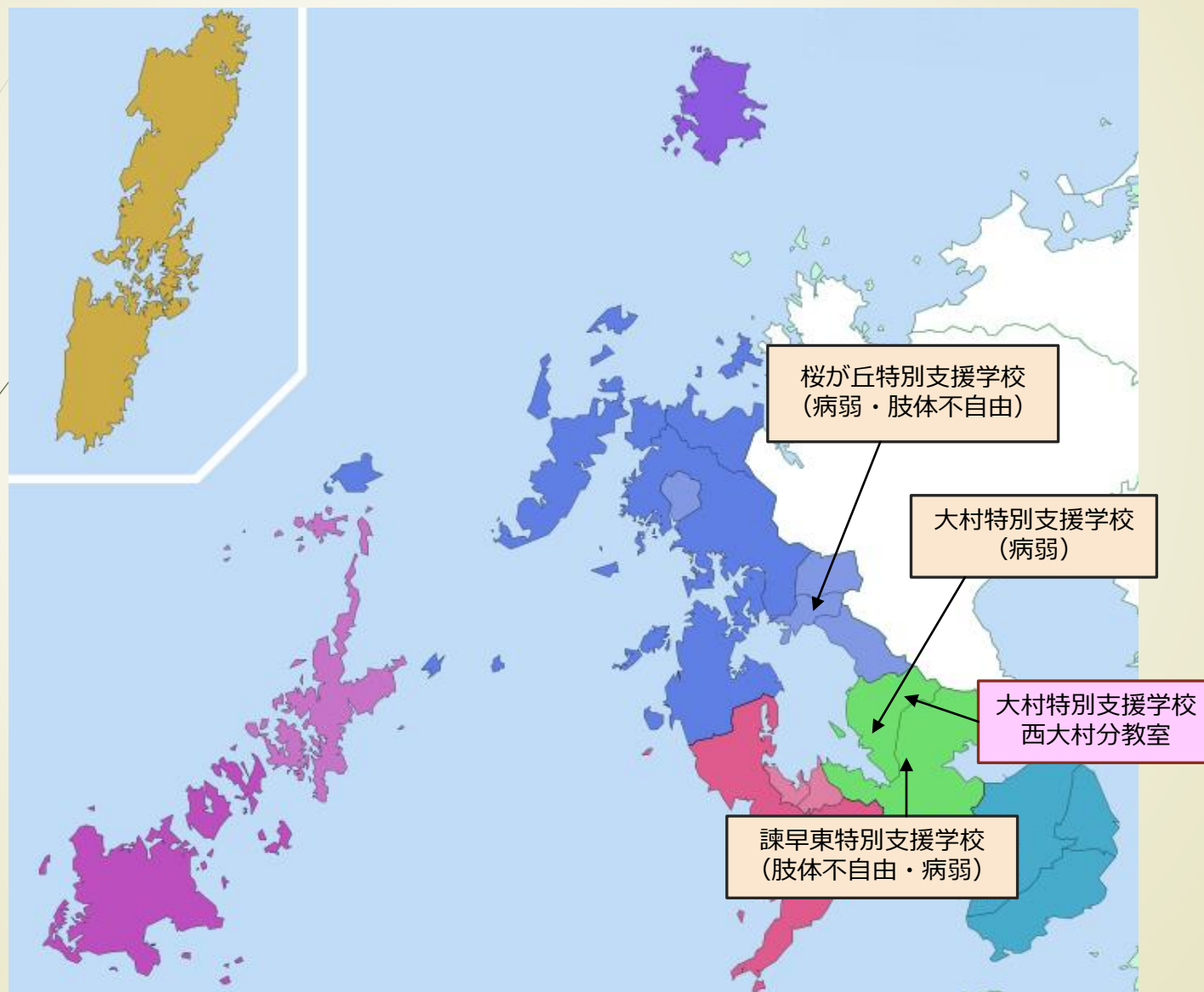
病弱特別支援学校における児童生徒の 実態に基づいた自立活動の在り方

長崎県立大村特別支援学校
小川 由香

長崎県の特別支援学校（県立 13校、国立 1校）



長崎県の病弱特別支援学校（3校、分教室1教室）



長崎県立大村特別支援学校について

長崎県立大村特別支援学校 本校

小学部 12名

中学部 32名 (訪問教育 1名)

計 44名

※寄宿舎併設



西大村分教室(平成30年4月開設)

※児童心理治療施設に隣接

小学部 4名

中学部 9名

計 13名 (5月1日現在)



長崎県立大村特別支援学校について



- 昭和 3 2 年 大村市立大村小学校の移動教室として発足
- 昭和 3 7 年 大村市立大村小学校・大村中学校の久原分校となる
- 昭和 4 0 年 長崎県立大村養護学校として開校
- 昭和 5 2 年 児童生徒数 1 1 6 名
- 平成 5 年 児童生徒数 4 5 名
- 平成 1 2 年 長崎医療センター慢性小児病棟廃止、児童生徒数 1 6 名
- 平成 2 2 年 長崎県立大村特別支援学校に校名変更
- 平成 2 5 年 児童生徒数 1 3 名
- 平成 2 7 年 創立 5 0 周年記念式典、児童生徒数 1 6 名
- 平成 2 8 年 訪問教育開始（自宅、長崎県精神医療センター、大村共立病院）
- 平成 3 0 年 西大村分教室開設（児童心理治療施設「大村椿の森学園」に隣接）
- 令和 4 年 児童生徒数 5 7 名（5 月 1 日現在）

長崎県立大村特別支援学校について



かつての大村特別支援学校

気管支喘息、ネフローゼ症候群、慢性腎炎、再生不良性貧血、
血友病…

いわゆる、病弱がイメージしやすい学校。



現在の大村特別支援学校

気分障害、不安障害、抑うつ、行為障害、愛着障害、
選択性緘黙、社交不安障害…

いわゆる、病弱がイメージしにくい学校。

長崎県立大村特別支援学校について



- 県内で唯一の、病弱単一の特別支援学校であり、在籍児童生徒数は年々増加傾向にある。
- 疾患の状況は、精神及び行動の障害が 8 割以上を占め、多種多様である。
- 小中学校に準ずる教育課程(Ⅰ課程)で学習を行っている児童生徒や、知的障害特別支援学校に準ずる教育課程(Ⅱ課程)で学習を行っている児童生徒が在籍する。

長崎県立大村特別支援学校



西大村分教室について

- 在籍している児童生徒は、隣接している児童心理治療施設「大村椿の森学園」（以下：学園）に入所している。
- 児童生徒は、ADHD、自閉症スペクトラム障害、適応障害などの診断を受けており、愛着障害を併せ有する者も多い。
- 「学園」への入退所に伴い、年度途中の転出入がある。

長崎県教育委員会研究指定（令和元・2年度）

長崎県教育委員会の「長崎県特別支援教育推進基本計画第4次実施計画」に基づいた「自立活動」の研究指定

【研究テーマ】

病弱特別支援学校における児童生徒の実態に基づいた自立活動の指導の在り方 ～中心課題を踏まえた指導の実践～

【研究テーマ設定の理由】

病気や障害により心理的に不安やストレスを抱えている本校児童生徒は、治療に伴う制限や体験不足等により日常生活や学習場面において様々なつまずきや困難がある。病弱特別支援学校において、自立活動の指導は病気や障害を改善・克服し、自立や社会参加に必要な資質・能力を支える学習であり、本校においても重要な課題であることから、2年間の研究及び実践に取り組むことにした。

研究の目的

- (1)「自立活動チェックリスト」による実態把握に基づいた自立活動「個別の指導計画」の作成を行い、児童生徒の中心課題を踏まえた指導の実践を行う。
- (2)個々の児童生徒の中心課題に基づいた目標を立て、指導内容や方法の計画(P)、指導実践(D)、評価(C)、改善(A)のサイクルを通じて、児童生徒の学習及び生活上の困難や課題の改善につなげる。
- (3)学習指導要領に基づいた、本校における自立活動「個別の指導計画」の様式や自立活動「個別の指導計画」作成マニュアルを検討する。
- (4)自立活動の指導に係る校内体制の構築を図る。

研究仮説

「自立活動チェックリスト」による実態把握を基に自立活動「個別の指導計画」を作成し、児童生徒の中心課題に基づいた目標設定を行い、PDCAサイクルを意識しながら、実践に取り組むことにより、学習及び生活上の困難や課題の改善につなげることができるだろう。また、複数の職員で自立活動「個別の指導計画」作成マニュアルを検討することや、自立活動の指導に係る校内体制を見直すことで、専門性の向上及び指導の充実につながると考える。

研究の方法

- (1) 長崎県教育センターの「自立活動実態把握チェックリスト」「自立活動の個別の指導計画作成の手順」等を参考に、本校版「自立活動チェックリスト」、自立活動「個別の指導計画」を作成する。
- (2) 「目標検討シート」を活用した複数の職員による「目標検討会」により、中心課題を踏まえた目標設定を行い、全ての児童生徒の自立活動「個別の指導計画」を作成する。
- (3) 作成手順や注意点、記入例などを自立活動「個別の指導計画」作成マニュアルとしてまとめる。
- (4) 自立活動「個別の指導計画」作成に関わる年間計画や指導に係る校内体制の改善を図る。

事例

本校における自立活動の指導の実際

- 1 生徒の実態把握
- 2 課題の抽出
- 3 課題の整理と指導目標
- 4 必要な項目の選定と具体的な指導内容
- 5 指導の実際
- 6 生徒の変容
- 7 まとめ

1 生徒の実態把握

【対象生徒】

- ・ 中学部 3 年生（中学部 1 年から本校入学）
- ・ 社交不安症、注意欠如多動症、知的発達障害、自閉症スペクトラム
- ・ 中学部 2 年時は、年間の出席日数が 26 日間と不登校状態であった。

1

生徒の実態把握 ☆ 自立活動チェックリスト

1 健康の保持

生命を維持し、日常生活を行うために必要な健康状態の維持・改善を身体的な側面を中心として図る

項目	学習上又は生活上の実態（例）	学習の要素
（１）生活のリズムや生活習慣の形成に関すること	覚醒と睡眠のリズムが規則正しい	<睡眠と覚醒のリズムの形成> <健康状態の把握>
	自分の体調が分かり、無理をしない	
	食事の量や時間が規則的である	<食事・水分摂取> <排泄>
	偏食がない（好き嫌いをなく食べることができる）	
	気温に適した衣服の調節ができる	<体温の調節> <清潔・衛生>
	髪や着衣の乱れを整えることができる	
	歯磨きや手洗い、洗面等の習慣が身に付いている	
	排泄時や排泄後の処理が身に付いている（女子の場合は整理も含める）	

2 心理的な安定

自分の気持ちや情緒をコントロールして変化する状況に適切に対応するとともに、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する意欲の向上を図り、自己のよさに気付く

項目	学習上又は生活上の実態（例）	学習の要素
（１）情緒の安定に関すること	自分の気持ちの状態を理解している	<気持ちへの気付き>
	緊張したり不安になったりする状態が継続することはない	
	<u>（自分の気持ちを伝えることができず、）自分を叩いてしまうなどの行動をとることはない</u>	<感情のコントロール>
	他者に対して攻撃的になるなど不適切なかわり方はしない	
	注意されたときに反発したときも、気持ちを鎮めることができる	
	見通しが立たないときに不安になることはない	
	不安や緊張が高まって、無意識に身体が動いてしまったり、声を発したりすることはない	
	自分の思う結果が得られないときも感情的にならない	

1

生徒の実態把握 ☆自立活動チェックリスト

(ポイント)

★自立活動における児童・生徒の「課題」と、課題改善に生かす「強み」を明確にする。

チェックの基準表

記号	意 味	基 準
◎	一人でできること	・ 本人の強みとして生かすことができるもの
●	支援があればできるが、課題がある	・ 現段階では支援を受けるとできるが、まだ課題があるもの
△	できない・難しい	・ 習得してもらいたい課題 ・ 学習・生活上の困難さの改善・克服につながる課題 ・ 3年後までに身に付けて欲しい力と関連がある課題
選択しない	当てはまらない(課題と捉えない)	・ 数年間指導して習得してできなかったこと ・ 指導してもあまり変容が見られなかったこと

(ポイント)

★「自立活動チェックリスト」に載っていない実態や、より良く伸ばしたい力があれば、「目標検討シート」の関連図を作成する際に、加えていくようにする。

1 生徒の実態把握

ドロップリストから◎、
●、△、空欄の
いずれかを選択する。

	A	B	C	D	E
1	1 健康の保持				
2	生命を維持し、日常生活を行うために必要な健康状態の維持・改善を身体的な側面を中心として図る				
3	項目	学習上又は生活上の実態（例）		学習の要素	特総研の教育的ニーズ・チェックリスト
4	（1）生活のリズム	◎	覚醒と睡眠のリズムが規則正しい	<睡眠と覚醒のリズムの形成> <健康状態の把握>	自己管理F1睡眠・生活リズム
5		●	自分の体調が分かり、無理をしない		身体D1身体症状・体調
6		△	食事の量や時間が不規則	<食事・水分摂取> <排泄>	自己管理F2食事
7			偏食がない（好き嫌いなく食べることができる）		自己管理F2食事

3枚の「実態把握シート」の完成

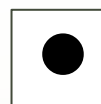
- ◎ 一人でできること
- 支援があればできるが、課題がある
- △ できない・難しい

2

「自立活動チェックリスト」を記入することにより完成した、◎(一人でできること)、●(支援があればできるが、課題がある)、△(できない・難しい)の3枚の実態把握シート



今年度の自立活動の指導目標設定に必要な「課題」と課題改善に生かす「強み」を抽出する。

[illegible]

学習上又は生活上の実態 (例) チェック有り一覧	当該施設における、当該施設が、	一歩手前施設	さらに手前施設
1. 課題の抽出	2. 具体的な改善	3. 人間関係の形成	4. 設備の整備
		一人では足りず、一緒に遊んだり行動したりすることが出来る 音楽と一緒に行動することが出来る 音楽がかけられることで喜びを感じることが出来る 相手のことを理解し合える、持ちあがることが出来る	
日々の体調の変化や施設内環境の変化に気づくことが出来る	一定時間、施設や施設ごとができる 活動や集中を維持し、安定して学習に取り組むことができる		
生活の管理ができる			

[illegible]

3

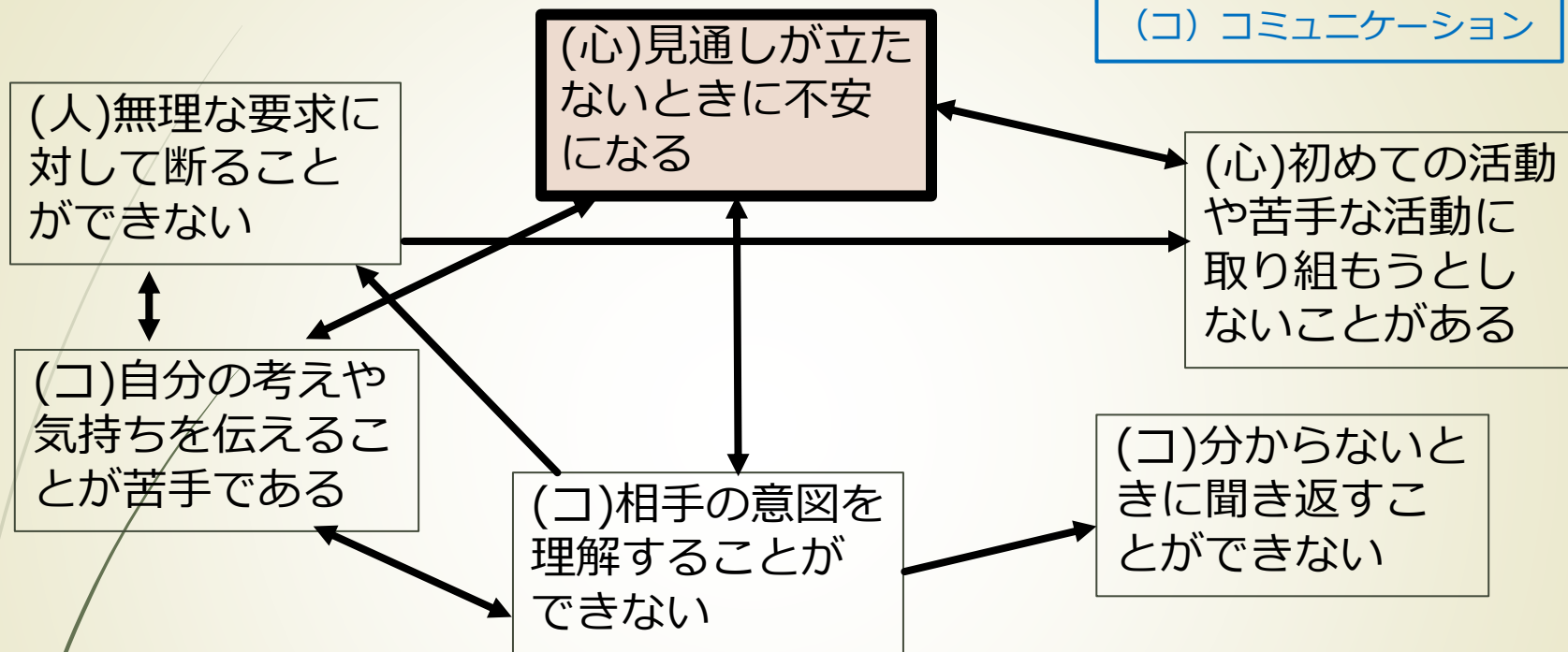
課題の整理と指導目標

☆ 自立活動「目標検討シート」を活用した 目標検討会

自立活動「目標検討シート」			
()学部()学年	氏名	担任(記載者)	()
個別の教育支援計画に記載した本人・保護者の願い及び支援目標			
(記入例) 保護者の願い：安定して登校できるようになる。(R元) 支援目標：安定して登校し、「できること」を増やすことで活動への意欲を高める。(R元)			
諸検査の結果と解釈			
諸検査、「自立活動チェックリスト」、各教科における学習上の困難などを踏まえた関連図			
原因 → 結果の関係 ← 相互に関連し合う関係			
(ポイント) ★諸検査で明らかになった強みや課題、学習上の困難などの中から、必要なものを関連図に加える。 ★「自立活動チェックリスト一覧表」の、△「できない・難しい」、●「支援があればできるが、課題がある」の中から目標設定に向けて注目すべき課題を抽出し、関連図を作成する。 ★「自立活動チェックリスト一覧表」の、◎「一人でできること」の中で、指導の方向性や手立てを考える際に、本人の「強み」として生かすことができるものを抽出し、関連図の下に加える。			
※「自立活動チェックリスト一覧表」の中から関連図に抽出したものは、児童生徒の実態を入れて詳しく表記する。 ※「強み」となるものは、枠や付箋の色を変える。 ※「強み」となるもの 「強み」となるものは、チェックリスト一覧表の、◎「一人でできること」の中から選ぶ。 中心課題は、太枠にする。			
関連図から考えられる指導の方向性 (指導仮説)			
(ポイント) ★中心課題の根拠となる児童生徒の実態を書く。(例)～の実態から、中心課題として捉えた。 ★上の関連図を基に、中心課題を踏まえ、この課題を指導することで、このように他の周辺課題の改善につながるということを考える。 ★指導にあたっては、関連図の下にもある、本人の「強み」を生かし、このような指導をすることで、このような効果が期待されるということを考える。(指導の方向性や手立て)			
今年度の自立活動の目標			
(ポイント) ★・目標は1年後の児童生徒の姿をイメージして、できるだけ具体的に示す。 □数値(回数、時間、量) □指導・支援後、教師が望む児童生徒の行動 □場面(場所、機会、相手) □指導・支援内容(教材、教師の働きかけ) ★目標を書く場合の主語は、「児童生徒」である。 ★1年間で達成可能な目標であるか確認する。			

3 課題の整理と指導目標

(心) 心理的な安定
(人) 人間関係の形成
(身) 身体の動き
(コ) コミュニケーション



「目標検討会」

担任、担外など複数の職員で、諸検査、「自立活動チェックリスト」、各教科における学習上の困難、本人の強みなどを踏まえた関連図の検討を行う。

強み

(身)手先を使った細かい作業が得意である

(人)他者から褒められることに喜びを感じる

3 課題の整理と指導目標

「見通し(活動内容、場所、関わる人)が立たないときに不安になる」ことを中心課題と捉えた。



本人の不安要素である、活動内容、活動場所、活動に関わる人を分かりやすく事前に提示、説明することで、参加可能な活動を自分自身で選択、決定することができるだろう。また、授業に参加できる経験を増やすことで、安心して学校で過ごすことができるようになるだろう。



本人の強みである「手先を使った細かい作業が得意である」ことを生かし、学習の中に本人が得意である作業的な活動を取り入れ、活動の中で教師や友達と関わり、褒められたり認められたりする経験を増やすことで、自己肯定感の高まりも期待される。

3

年間目標：

複数の教師や友達と一緒に、
一日全ての授業に取り組む
ことができる。

短期目標（前期）：

担任教師や友達と一緒に、
自分で選んだ午前中の授業
に取り組むことができる。

「目標検討会」

担任、担外など複数の職員で、関連図から考えられる指導の方向性の検討を行い、今年度の自立活動の目標を決定する。

「目標検討シート」

自立活動「目標検討シート」(第2)

(中) 学級(3) 学年	氏名	担任(記載者)
--------------	----	---------

諸検査の結果と解釈

WISC-III 全検査 (FSIQ) 61 言語理解 (VCI) 58 非言語理解 (PRI) 71 ワーキングメモリ (WMD) 71
 知能検査 (PSI) 76

・言語理解と非言語理解 知能の力 非言語理解 指導者との関係 教師との関係 指導者との関係 教師との関係

諸検査、「自立活動チェックリスト」、各教科における学習上の困難などを踏まえた関連図

原因
→ 結果の関係 ←→ 相互に関連し合う関係

(11) 見通しを立てられない
不安にならなことがある

(人) 無理な要求に対して
断ることができる

(12) 今の状況や自分の
活動に、取り組もうとしない
ことがある

(13) 自分の考えや気持ち
を伝えることが苦手

(14) 今の状況と
関係は通ずることがない

(15) 相手の意図と理解が
できない

(16) どの程度の量に
喜ぶか感じることが
できる

(17) 今の状況と
関係は通ずることが
ない

(18) どの程度の量に
喜ぶか感じることが
できる

関連図から子どもの指導の方向性 (指導仮説)

「見通しを立てられない不安になることがある」ことを中心課題と見えた。この課題を指導することで
 「相手の意図と理解が通ずることがない」「自分の考えや気持ちを伝えることが苦手」「今の状況と関係は通ずることがない」という点や「自分の考えや気持ちを伝えることが苦手」「今の状況と関係は通ずることがない」という点や「自分の考えや気持ちを伝えることが苦手」
 という点を生じ、本人が「次の日の授業の時間割」が出てきたときに「授業を望む」と望む、教師は「自分の考えや気持ちを伝えることが苦手」の内容と教師と相談しながら指導の方向性を定めて、見通しを立てながら進んでいく。
 登壇者との期待する。

今年度の自立活動の目標

後者の 職業や 友達と一緒に活動する(取組)組むことである。

(前) 担任教師や 月にクラス 友達と(会話した)活動する(取組)組むことである。

4 必要な項目の選定と具体的な指導内容

心理的な安定	人間関係の形成	コミュニケーション
(1)情緒の安定に関すること (2)状況の理解と変化への対応に関すること	(3)自己の理解と行動の調整に関すること	(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

指導内容	①安心して学校で過ごすための方法を知り、それらを実践して振り返る。	②報告、連絡、相談などの仕方を知り活動場面で自分から人と関わることに慣れる。
項目	心(1)(2) 人(3)	心(2) 人(3) コ(5)
指導場面	日常生活の指導、自立活動	自立活動、生活単元学習、特別活動

5 指導の実際

指導内容①

安心して学校で過ごすための方法を知り、それらを実践して振り返る。

手立て：

時間割に学習内容や担当教師を提示し、出席できそうな授業を選びやすいようにする。

教室内白板 時間割

日	1	2	3	4	5	6
月	日生	自立	生単	美術	給食	国
火	今里	今里	山実 安井	上田 片山	野坂	長瀬
水	日生	学活	全体	美術	総合	総合
木	今里	今里	野坂			
金	9月4日(金)					

5 指導の実際

指導内容①

安心して学校で過ごすための方法を知り、それらを実践して振り返る。

連絡帳の時間割

手立て：

生徒自身に時間割を書かせ、出席できる授業に○を付けさせる。

<時間割>		
時間	教科	持って
①校時	日生	・さくら学校の申し込み ・8:4 ・A
②校時	美術	
③校時	音楽	
④校時	全体	
⑤校時	英語	
⑥校時	音楽	

5

指導の実際

指導内容①

安心して学校で過ごすための方法を知り、それらを実践して振り返る。

手立て：

一人で落ち着いてできる、本人が好きな活動をする時間を設定する。

指あみ作品作り



5 指導の実際

指導内容②

報告、連絡、相談などの仕方を知り、活動場面で人と関わることに慣れる。

手立て：

活動内容として、友達と相談して決めたり、発表したりする場面を設定し、活動後に振り返りをさせる。

振り返りシート

目標	評価すること	評価 (○△×)	感想 (友達とゲームをしてみよう)
(5)月(7-6)日 (火)曜日	ルールを守ることができたか	○	少し問題がわかった。
	友達と話し合ってチームを決めたり、ゲームをしたりすることができたか	○	
(5)月(28)日 (木)曜日	ルールを守ることができたか	○	すぐ終わった。
	友達と話し合ってチームを決めたり、ゲームをしたりすることができたか	○	
(6)月(16)日 (火)曜日	ルールを守ることができたか	△	楽しかった。
	友達と話し合ってチームを決めたり、ゲームをしたりすることができたか	△	
(6)月(23)日 (火)曜日	ルールを守ることができたか	○	ぜんぜんついで

5 指導の実際

指導内容②

報告、連絡、相談などの仕方を知り、活動場面で人と関わることに慣れる。

手立て：

自己理解をするためのチェックシートを活用し、自分の得意、不得意を知り、自分自身の変化に気付かせる。

チェックシート

	1-できない	2-できないことが多い	3-半分くらいはできる	4-まあまあできる	5-とてもできる
	1-いつもある	2-あることが多い	3-ある時とない時がある	4-たまにはある	5-ほとんどない
	1-☹	2-☹	3-😊	4-😊	5-😊
①不安や悩みはありません。	1	2			
②自分の気持ちをコントロールできます。(イライラしても気持ちをなおされます。)	1	2			
③気になることがあっても、気持ちを切りかえてやるべきことができます。	1	2			
④がんばろうと思う意欲や元気があります。	1	2			
⑤自分の気持ちや、自分の今の状態わかっています。	1	2			
⑥自分の気持ちを言葉や文で伝えられます。	1	2			
⑦自分の気持ちは穏やかです。	1	2			
⑧少しのことでテンションが上がったり、下がったりすることはありません。	1	2			
⑨自分のことを大切に思います。または、自信を持てることがあります。	1	2			
⑩他の人のことを大切に思います。	1	2			
合 計					

5

指導の実際

指導内容②

報告、連絡、相談などの仕方を知り、活動場面で人と関わることに慣れる。

手立て：

本人が得意な指あみなどの作業や興味のある音楽活動を取り入れ、人と関わりやすい場面を設定する。



合同作品作り



合奏



6

生徒の変容

	中学部 2 年生	中学部 3 年生
活動内容	・ 音楽、職業家庭(調理実習)、国語などの授業への参加が年に数回あった。 ・ 年間 26 日の出席日数の全日数遅刻。	・ 1 学期当初は、一日の授業の中で本人が選択した、音楽、美術、職業家庭等の午前中 1～2 時間の参加。  ・ 一人で昼食をとり、昼食をはさんでの 2～3 時間の授業への参加。  ・ 7 月から、担任と食事をし、昼前後 3～4 時間の授業への参加の増加。  ・ 安定して登校できるようになり、欠席はほとんどなくなった。

6

生徒の変容

	中学部 2 年時	中学部 3 年
人との関わり	・ 担任との活動が主で、言葉でのやりとりは難しい。 ・ 首振りや、うなずきでの意思表示はある。	・ 学期当初は、担任の授業に主に参加したが、言葉や表情の表出は少ない。  ・ 担任以外の教師の授業にも参加し、言葉でのやりとりが徐々に増える。 ・ 顔を覆っていた髪を短く切り、半袖シャツを着るようになり、頬を緩ませるような表情が見られるようになった。 ・ 1学期末頃には、友達を気遣う言葉や行動が見られるようになった。

6 生徒の変容

	中学部 2 年生	中学部 3 年生
出席日数	1 学期 7 / 6 2 日 2 学期 9 / 7 7 日 3 学期 1 0 / 3 4 日 計 2 6 / 173 日 (出席日数 / 出席すべき日数)	1 学期 1 0 / 4 2 日 2 学期 7 1 / 7 4 日 3 学期 2 9 / 3 4 日 計 141 / 165 日 (出席日数 / 出席すべき日数)

「自立活動チェックリスト」を記入することで、生徒の「課題」と課題改善に生かす「強み」を明確にすることができた。



担任や担外など複数の職員で「目標検討会」を行うことで、「課題」間の関連の整理や「中心課題」の明確化、指導の方向性の検討を行い、今年度の自立活動の目標設定ができた。職員間の共通理解のもと、どの授業においても自立活動の目標や必要な手立て等を意識した指導ができ、生徒の変容へとつなげることができた。

7 まとめ

【課題】

- 指導した内容が、各教科や特別活動、学校生活全体でどう生かされているかを検証し、般化を促していく必要がある。
- 今後の生活の中では、困ったときに人に相談したり頼ったりするなど、自分から人に関わる力を伸ばしたいと考える。
- 進路先への引継ぎ等、関係機関と連携していく必要がある。

研究の成果

- (1)「自立活動チェックリスト」による実態把握を行い、「目標検討シート」を活用し、目標検討会を通して客観的に自立活動「個別の指導計画」の作成、評価を行うことができた。
- (2)目標設定や指導内容、方法の計画(P)、指導実践(D)、評価(C)、改善(A)のサイクル全体を通して見直しを行い、指導改善を図ることができた。
- (3)グループ研究による事例研究を通して、自立活動「個別の指導計画」記入例を作成し、自立活動「個別の指導計画」作成マニュアルを完成することができた。

参考 自立活動の時間の指導（週時数）について

令和2年度

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
小学部 Ⅰ 課程	2	2	1	1	1	1
小学部 Ⅱ 課程	2	3	1	2	1	1

	1年	2年	3年
中学部 Ⅰ 課程	1. 5	1. 5	1. 5
中学部 Ⅱ 課程	4. 6	4	4

Ⅰ 課程：小学校・中学校学習指導要領に準ずる教育課程及び下学年代替の教育課程

Ⅱ 課程：重複障害等に関する教育課程の取扱いにより知的障害特別支援学校に準ずる
教育課程

参考

自立活動の時間の指導（週時数）について

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
小学部 I 課程	2	2	1	1	1	1
R2 小学部 II 課程	2	3	1	2	1	1
R4 小学部 II 課程	3.5	4.5	5	6	4	4

	1年	2年	3年
中学部 I 課程	1.5	1.5	1.5
R2 中学部 II 課程	4.6	4	4
R4 中学部 II 課程	6.6	6	6

現在の校内研究について

この2年間の取組で、学習指導要領を踏まえた自立活動「個別の指導計画」の活用の土台は整い、現在でも「目標検討シート」や作成マニュアルを活用し、更なる改善を行いながら、自立活動「個別の指導計画」を作成し指導の充実を図っている。

この研究に取り組む中で、各研究グループから課題として挙げられたのが、本校の児童生徒に合った実態把握の方法、指導目標を達成するための指導方法、学習評価であり、今後も更に検討を重ねていく必要があることがわかった。

そのため、令和3年度からは、実態差の大きい児童生徒の学習評価についての研究を行うこととした。

西大村分教室の研究について

病弱特別支援学校における自立活動の取組

令和4年度第62回九州地区病弱虚弱教育研究連盟
研究協議会で実践発表の予定

自立活動の指導における学校と学園の共通理解事項

- 診察や心理面接だけが治療ではなく、日常生活や学校生活すべてが治療である。
→互いに情報を交換し、指導・支援の統一化が必要。
- 心理治療と学校教育（特に自立活動）は別であることを踏まえ、目標を設定すべきである。
- 自立活動の指導における有効な指導の手立てを知る。
- 学習へ向かう態勢を整えるための効果的な指導・支援の方法を知る。



病弱特別支援学校における児童生徒の 実態に基づいた自立活動の在り方